

令和6年度民泊受け入れ家庭を大募集中！

令和6年度の民泊実施に向け、受け入れ家庭を募集しています。令和6年度は年間で2,633人の受け入れを予定しており、東北最大規模での民泊受け入れとなります。

民泊は、訪れた生徒や各家庭にとって一生の思い出となるだけでなく、交流を通じて地域をより元気にする力があります。

「興味はあるけど、ちゃんと受け入れられるか不安」「民泊で何をすればいいのかわからない」など、民泊について関心のある人は、ぜひ気軽にご相談ください。

民泊受け入れ  
家庭の皆さんに  
インタビュー

平成28年度から受け入れに参加



むら 村 上 妙 子 さん (広田町)

◆民泊を受け入れたきっかけは何ですか？

震災があって、津波で海も大変な状況のなか、収入源の確保などこれからどうしようか悩んでいた時期にSETから「民泊があるよ」と紹介してもらいました。既に受け入れしていた人からもアドバイスを受け、安心して始めました。

◆初めて受け入れる方へのアドバイスはありますか？

まずは無理をしないことです。食事にしても、普段食べているものを出すのがいいと思います。気合い入れて焼き肉とか考えると、若者の胃袋を満足させるくらい食べさせようと思うと予算オーバーになっちゃうなんて事もあり、意外と落とし穴です。

昨秋に初めての受け入れ！



こん の あすか 明日香 さん (米崎町)

◆民泊を受け入れたきっかけは何ですか？

中学生や高校生と関わる機会があまりないので、新しい風を取り入れるいい機会になると思いました。

受け入れについては何もわからない状態でしたが、「普段と変わらず家族として受け入れて欲しい」という言葉に背中を押されました。

◆初めて受け入れてみての感想は？

1日目はお互いに緊張して距離感があったんですけど、2日目からは一緒に食卓を囲んだり、ボードゲームで遊んだりしているうちに慣れてきて、お互いに壁がなくなったように感じました。最終的には笑顔で「楽しかった」と言ってもらえてよかったです。

◆今後民泊を続けていきたいですか？

もちろんやりたいです！民泊を通じて、色々な子ども達に出会えていい経験ができましたし、純粋に楽しいと思える取り組みでした！

問い合わせ先 SET 民泊事務局(吉原) ☎070(2021)3690

本市は、令和元年(2019年)7月に「SDGs未来都市」に県内で初めて選定されました。「その先の笑顔のため、いまできること」編では、本市でSDGsの達成に向け積極的に取り組んでいる人・団体、関連イベントなどを紹介しています。

あなたもぜひSDGsに取り組んでみませんか？

多様性について考えるワークショップを開催しました！

市では、「ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり」を推進することを目的として、障がいの有無や価値観の違いなどの多様性について理解を深める体験型ワークショップを開催しました。

2月6日(火)には高田第一中学校の2年生71人、7日(水)には高田東中学校の1年生44人が参加し、ワークショップを通じてそれぞれがもつ「自分らしさ」を尊重しあうことの大切さを学びました。

「自分らしさ」と向き合う

自分が思う自らの強みや性格に加え、同級生から見た強みや性格を付箋に書き出し、思わぬ自分らしさが見つかることも。互いの違いを認め合い、多様性への理解を深めました。



本市在住のアーティスト  
田崎飛鳥さんも生徒と一緒に  
アートを創作しました



「自分らしさ」をアートで表現

ボールや扇糸、スポンジ、指絵の具など、様々な画材を用いてのびのびと自分らしさを表現するアートを描きました。

ワークショップの感想を聞きました

★鈴木 みのり さん (高田第一中学校)

ワークショップを通じて、これまで意識していなかった自分や相手の良さに気が付くことができました。これから障がいの有無に関わらず、どんな人と接する時でも個人を尊重して関わっていききたいと思います。

★及川 晴 さん (高田東中学校)

普段はなかなか気がつかない自分や相手の個性も、改めて見つめ直すとその良さが見つかったりして新鮮な気持ちでした。アートはとにかく無心で描いてみて、自由に表現することができてよかったです。